人、未来、エレクトロニクス…

加賀電子株式会社

東証一部：証券コード 8154

第46期
中間グループ報告書

平成25年4月1日 ― 平成25年9月30日

宮坂　健《魚の塔》

Kaga Electronics Group Report

What's KAGAism?

[経営理念] すべてはお客様のために

加賀電子グループは、創業以来「すべてはお客様のために」という想いを胸に、
電子部品の調達を事業の原点として、お客様のご要望にお応えしながら事業領域を拡大してまいりました。
私たちは、今後も行動指針である「F.Y.T.」「3G」の精神に則り、エレクトロニクス業界の発展に貢献してまいります。

加賀電子グループの行動指針

F.Y.T.
[ファイト]

- **F**lexibility 柔軟性を持って
- **Y**oung 心の若さを持って
- **T**ry 絶えず挑戦

3G

- **G**eneral あらゆるものを
- **G**lobal 全世界で
- **G**roup 総合力を活かして

お客様への提供価値

『エレクトロニクス総合商社』としてエレクトロニクスに関するあらゆるニーズにお応えします

開発設計をして欲しい ＞ 部品を集めて欲しい ＞ 組み立てをして欲しい ＞ 製品を販売して欲しい

コンサルテーション

企　画

開　発

部品調達

生　産

販　売

加賀電子グループの事業領域

●電子部品事業

世界最高水準の部品を国内外から調達するだけでなく、EMS(注)(製品の受託生産)までお客様のご要望に合わせ提供しております。

(注)Electronics Manufacturing Service

●情報機器事業

国内外のPC・周辺機器や自社製品の販売から、電気通信工事からシステム構築までワンストップサービスで提供しております。

●ソフトウェア事業

コンピュータグラフィックスの作成やゲームソフトの制作、アミューズメント機器用画像の開発などをしております。

●その他事業
(エレクトロニクスから派生する事業)

エレクトロニクス機器の修理・サポート、アミューズメント機器やスポーツ用品の販売など多様なニーズにお応えしております。

成長分野への営業活動を強化し、業績の向上に邁進してまいります。

加賀電子グループ全体の中間期業績と今後について、塚本勲会長と塚本外茂久社長に話を聞きました。

代表取締役社長 塚本 外茂久　代表取締役会長 塚本 勲

Q 当中間期の業績についてご報告ください。

A 業績が順調に推移し、当中間期の計画を上回る結果となりました。

社長／当中間期（平成25年4月1日～9月30日）のエレクトロニクス業界は、スマートフォンやタブレットなどのモバイル端末市場や車載市場などは好調に推移いたしましたが、デジタル家電市場やパソコンおよび周辺機器を中心とした情報機器市場は厳しい状況で推移しました。この様な環境の中で当社グループは業績回復を目指し、「車載」、「無線・通信」、「環境」および「海外ビジネス」の4つの成長分野を中心に既存顧客への拡販、新規顧客の開拓など営業努力を重ねてまいりました。その結果、連結業績は売上高122,077百万円（前年同期比17.6%増）、営業利益2,194百万円（前年同期は営業損失470百万円）、経常利益2,437百万円（前年同期は経常損失355百万円）と、おかげさまで期初に発表していた当中間期の計画を上回る結果となりました。

セグメント別では、「電子部品事業」については、国内のアミューズメント機器向けEMSおよび電子部品などの需要が増加し、また、タイ、中国をはじめとする海外におけるEMSも好調に推移しました。「情報機器事業」は、コンシューマ向けのパソコンなどの需要が減少し苦戦しましたが、住宅向け関連商材や教育機関向けのパソコンやソフトウェアおよび環境関連商品などの販売が好調に推移しました。「ソフトウェア事業」につきましてもCG制作やアミューズメント機器用画像処理ビジネスなどに注力した結果、増収増益となりました。

※本書におけるP2-4では、インタビューならではの口語調を活かすため「中間期」と記し、P5以降については「第2四半期」と表記しております。

Top Interview

会長／前期に引き続き経営の最重要課題として業績不振グループ会社の再建に取り組み、概ね順調に改善されたことが当中間期の業績に影響しています。加賀ハイテック㈱は取り扱い商品を個人向けのパソコンから、オリジナル商品や世界各地の注目度の高い商品へと見直し、利益を確保する体制を構築中です。そして加賀コンポーネント㈱はグループ会社との連携により、生産効率を上げていくための改善を継続して行っております。㈱サイバーフロント、㈱エスアイエレクトロニクスはグループ会社との協業を視野に入れ、業績の改善を加速させている最中です。

Q　かねてより注力してきた成長分野を中心とした当中間期の成果について、お聞かせください。

A　先行して取り組んできた分野が案件となりはじめ、確かな手応えを感じています。

社長／「環境」分野では、商材のLED照明が好調で、駐車場関連など新しいお客様からご成約をいただきました。今後、各企業は業績の改善と電気料金の値上がりを受け、LED照明への切り替えが加速することが予想されますので、引き続き太陽光発電システムなどと合わせて大型案件の獲得を目指していきます。

次に、「車載」分野ですが、自動車のエレクトロニクス化により、電子部品や半導体が使われる比率がますます高まっています。たとえば、カメラモジュールにいたっては「安心・安全」の観点から以前の2倍ほど自動車に搭載されるようになってきました。当社グループでは、この分野には数年前から力を入れており、前期に東芝半導体販売代理店で当社子会社の㈱エー・ディーデバイスが東芝セミコンダクター＆ストレージ社の関係会社で車載機器市場に強みを持つエーエスデバイス㈱を吸収合併したことによるシナジー効果も奏功し、当中間期の実績に結びついています。さらにカメラモジュールはセキュリティーの分野においても監視カメラの中に使われており、数多くのお客様にご採用いただいております。今後、これらの分野のみならず、様々な分野において、「安心・安全」のための電子部品や半導体の搭載が増えていくと考えて、次に備えていきます。

「無線・通信」の分野も活況を帯び、通信モジュールを使い3G回線で無線通信を行うシステムを構築し、多くの取引先に引き合いをいただいております。通信回線を引く費用、工事費、回線料も不要なことから、今後、いろいろな業種のお客様にもご採用いただけると思っております。

また、災害時の対策として通信基地局バッテリーの長時間化が進んでおり、大手通信業者から基地局に使用するリチウムポリマーバッテリーの注文を数多く頂戴しました。バッテリーは今後も大きなビジネスにつながると期待しているところです。

■第46期中間 連結業績サマリー

売上高▶	1,220億円	前年同期比 17.6%増 ↑	経常利益▶	24億円	前年同期 △355百万円 ↑
営業利益▶	21億円	前年同期 △470百万円 ↑	四半期純利益▶	13億円	前年同期 △1,373百万円 ↑

会長／当社グループの特徴として、成長分野を見極め、様々な商品を扱うことにより、新たな取引先と関係を構築し、ビジネスを拡大していくことが得意です。また、ただ商品を販売するだけではなく、ニーズをとらえ、付加価値のある企画提案を行うことで新たな商談がまとまる機会が非常に増えてまいりました。

今後、車載や無線・通信、環境の他にも、医療をはじめ様々な分野でますます電子部品や半導体が使われていくことで、新たなお客様にご提案できる機会が増えていくのではと考えています。

社長／半導体においては、大変楽しみな商材のひとつとして次世代型のパワー半導体の共同研究があります。当社が支援しているベンチャー企業が開発したインバーターなどに使用する半導体で、市場が待ち望んでいた大変注目度の高いものです。実用化に向けて今後の展開に期待を寄せています。

Q 最後に株主の皆様へメッセージをお願いします。

A 株主様の利益を増大させるべく、グループ一丸となって、邁進していきます。

社長／今後もさらに拡大が予想される、車載、無線・通信、環境、海外ビジネスの4つの分野に重きを置いていきたいと思っております。

会長／エレクトロニクスの世界は速いスピードで進化し続けていきますが、当社グループは行動指針である、F.Y.T.の精神で、時代の変化をいち早く読み取り、世界各地で果敢に新しいビジネスに挑戦し、増収増益を目指してまいります。

株主の皆様におかれましては、引き続き変わらぬご支援ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

平成25年11月

■第46期通期 連結業績サマリー（予想）

売上高▶	2,470億円（前期比14.1%増）	経常利益▶	43億円（前期比122.6%増）
営業利益▶	36億円（前期比185.7%増）	当期純利益▶	22億円（前期比394.6%増）

Special Report

グループシナジーの最大化を目的に、加賀デバイスとエー・ディ・エムを合併し、新生加賀デバイスが誕生しました。

加賀デバイス㈱、エー・ディ・エム㈱のそれぞれが持つ技術開発力と営業力を融合させ、新たな価値を提供し、変化が激しいエレクトロニクス業界において存在感を発揮してまいります。

加賀デバイス株式会社

2013年3月期 グループ売上高

287億円

事業内容

三菱電機・ルネサスエレクトロニクス・SK hynix Japanなどの特約店として半導体および各種電子部品・電子機器などを販売

「強み」と「特徴」

優れた営業力と高度な技術力をあわせ持ち、顧客に付加価値をつけてソリューションを提供しています。三菱電機、ルネサスエレクトロニクスおよびSK hynix Japanなどの特約店として、半導体、映像情報機器の販売を行っており、顧客にとって最適なデバイスをお届けするため、システム設計・開発も行っております。

大きく成長を続ける中国、インドに充実したグループネットワークを持っていることで海外ネットワークと連携しながら顧客に最適なソリューションを提供することが可能です。

エー・ディ・エム株式会社

2013年3月期 売上高

92億円

事業内容

アナログ・デバイセズ社、オムニビジョンテクノロジー社などの販売代理店として半導体および各種電子部品・電子機器などを販売

「強み」と「特徴」

アメリカに本社を持つアナログ・デバイセズ社の販売代理店として発足し、アナログICを国内産業機器、医療機器、車載機器、家電メーカーなどへ提供することにより、事業を拡大してきました。アナログICは、音声、画像や、各種センサーなどのアナログ信号をデジタル信号に変換したり、逆にデジタル信号を人間が認識できるアナログ信号に変換する機能が中心であり、あらゆる電子機器に使用されています。アナログICの販売や技術サポートで培った技術力を背景にして、各種輸入半導体の取り扱いを行うとともに、それら半導体を利用した各種モジュール・ソリューションの提供も行うエレクトロニクス商社です。

加賀デバイス株式会社

2014年3月期 グループ売上高目標

400億円

2017年3月期 グループ売上高目標

500億円

Top Message　トップメッセージ

代表取締役社長 **松下 茂**

当社は、合併により半導体製品ではデジタルからアナログまで、顧客は民生・産業機器・車載・アミューズメントと製品・顧客ともに広範に及びます。

この強みを活かし目標達成に向けて当社は以下の施策を実行していきます。

①すばやくシナジー効果を発揮するため、双方の顧客にお互いの商材を拡販。

②国内は、安定成長を、海外は、新興国の成長を取り込み高い成長を実現。

③変動の激しい業界のため国内外ともにM&Aも視野において活動。

新生加賀デバイスをよろしくお願い申し上げます。

合併によるシナジー

顧客数の拡大&取扱製品拡充

加賀デバイスとエー・ディ・エム両社の顧客へ、それぞれの商材を販売することが可能になることによるビジネスチャンスの拡大

海外拠点の拡充

中国、香港、インドの各拠点における両社ビジネスの補完による海外展開の効率化

技術チームの共有化による機能拡充

技術チームの共有化による既存取扱商品のビジネスチャンス増加と新規ビジネス開拓機会の増加

主な販売代理契約先

- 三菱電機株式会社
- ルネサスエレクトロニクス株式会社
- SK hynix Japan Inc.
- アナログ・デバイセズ社
- オムニビジョンテクノロジー社

など

F.Y.T.! ファイト SPIRITS

［ファイト・スピリッツ］

加賀電子グループは、エレクトロニクス総合商社として、
つねにあらゆる可能性にチャレンジしてきました。
当第2四半期におけるF.Y.T.精神に基づく様々な取り組みをご紹介します。

ファイト・スピリッツ #01

アミューズメント施設向けマルチ電子マネー決済システムの実証実験を開始

加賀アミューズメント㈱は、ヤマトホールディングス㈱グループのヤマトシステム開発㈱とヤマトフィナンシャル㈱と共同でゲームセンターをはじめとしたアミューズメント施設における電子マネー決済システムの実証実験を開始することになりました。

今回、共同で行うマルチ電子マネー決済システムの実証実験は、複数の電子マネーに対応した読み取り決済端末をアミューズメント施設内にあるゲーム機器に取り付けて、電子マネー決済でゲームプレイ出来る仕組みを構築し、顧客の電子マネーの利用傾向を調査するものです。

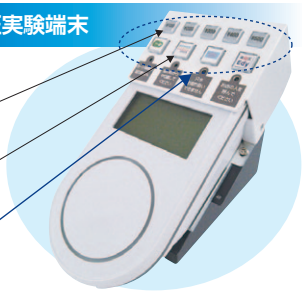
今後は、アミューズメント業界（以下AM業界）における当システムの本格導入を視野に入れつつ、消費者が電子マネー決済で得られるポイント、クーポン、スタンプ等の販促支援サービスの仕組みや、これからの世の中に合ったAM業界独特の特徴なども組み入れた使い勝手の良いトータルインフラの提供を目指して、当システムの更なる協議、検討を進めていく予定であります。

●実証実験の実施概要
- 実施時期　2013年11月8日(金)～2014年1月下旬予定
- 実施店舗　株式会社タイトー タイトーステーション 新宿東口店
  株式会社ソユー プレイランドソピア 御所野店
  ※WAON専用端末で2013年10月21日先行導入中。

当実証実験用マルチ電子マネー決済システムの特徴

①複数の電子マネーに対応したシステム
　・Suica　・PASMO　・nanaco　・WAON　・楽天Edy
②柔軟なプレイ単価の設定を実現
③無人オペレーションでの稼働を実現
④各種電子マネー事業者のポイントサービスを提供
⑤ゲーム機器それぞれに設置可能なコンパクトな端末

マルチ電子マネー決済実証実験端末



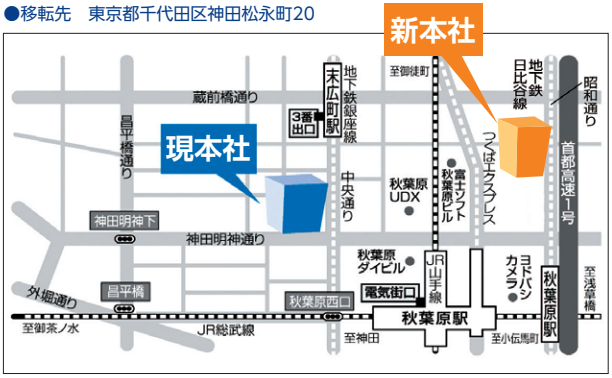
※端末画像はイメージです。

ファイト・スピリッツ #02

加賀電子、平成26年3月に本社移転

加賀電子㈱は、平成26年3月に現在の東京都千代田区外神田から東京都千代田区神田松永町に本社を移転いたします。今回の移転を機にグループ会社間の連携を密としたシナジー効果の向上を図り、更なる飛躍をしてまいります。

●移転先　東京都千代田区神田松永町20



西側外観

東側外観

新本社特徴

東側（昭和通り側）はガラス、西側（裏通り側）は花崗岩を主体としたシンプルでモダンなファサード（建物の正面）。ガラスは二重（ダブルスキン）構造を採用し、中間期（春・秋）は外気を取り入れることで、快適なオフィス環境を構築します。最上階には社名サインが入り、首都高速からのPR効果は抜群です。

ファイト・スピリッツ #03

「CEATEC JAPAN 2013」に出展

加賀ハイテック㈱は、平成25年10月1日から5日まで開催された、最先端IT・エレクトロニクス総合展「CEATEC JAPAN 2013」に出展いたしました。「あなたのDigital Lifeをより個性的に演出します」をコンセプトに、TAXANブランドMéoシリーズ新製品に加え、モバイル、ワイヤレス、ウルトラPC、スマートフォンなどの魅力的な周辺機器を展示し、多くのご来場の皆様にご覧いただきました。

加賀ハイテックのスマホと連動したモバイル新製品

TAXAN
MéoBank SD Plus

TAXAN
MéoSound Shower

TAXAN
MéoSound transmitter

Financial Highlights

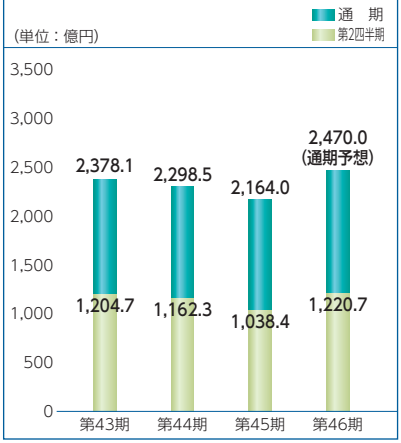
財務ハイライト

連結売上高 122,077百万円
(前年同期比17.6%増)

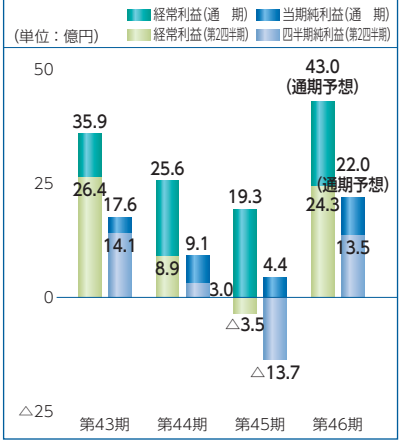
連結経常利益 2,437百万円
(前年同期は経常利益△355百万円)

連結四半期純利益 1,352百万円
(前年同期は四半期純利益△1,373百万円)

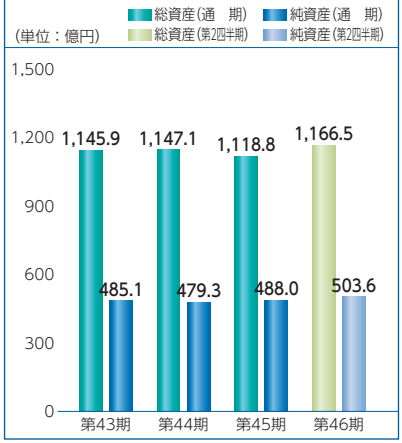
連結売上高



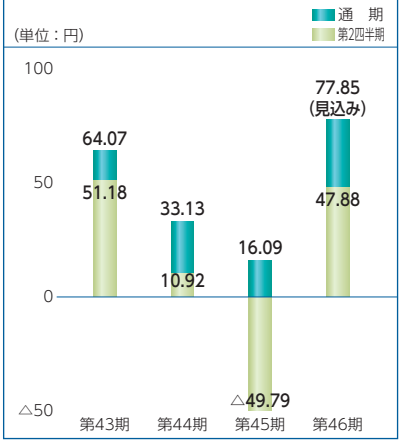
連結経常利益／連結四半期(当期)純利益



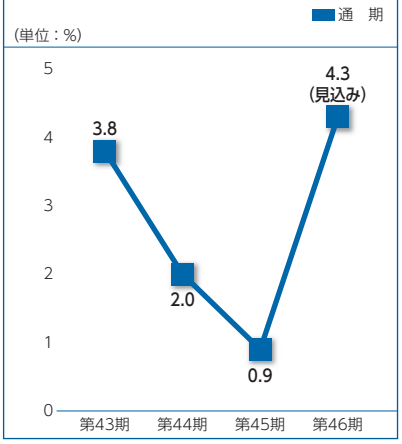
連結総資産／連結純資産



1株当たりの連結四半期(当期)純利益

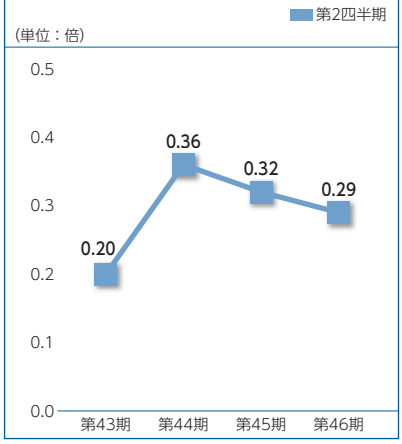


ROE



ROE(自己資本利益率)は、株主の皆様の投資を活用した結果どのくらい利益を得たのかを示す指標です。
ROE(%)＝当期純利益÷自己資本×100

D／Eレシオ



D/Eレシオ(Debt Equity ratio)は、有利子負債と自己資本の比で、長期の支払い能力を示す指標です。
D/Eレシオ(倍)＝有利子負債÷自己資本

Consolidated Financial Statements

財務諸表（連結）

四半期連結損益及び包括利益計算書 （単位：百万円）

科　目	前第2四半期（累計）（自平成24年4月1日 至平成24年9月30日）	当第2四半期（累計）（自平成25年4月1日 至平成25年9月30日）
売上高	103,845	122,077
売上原価	91,515	106,348
売上総利益	12,329	15,728
販売費及び一般管理費	12,800	13,534
営業利益又は営業損失（△）	△470	2,194
営業外収益		
受取利息	20	26
受取配当金	42	56
受取手数料	117	103
為替差益	–	15
その他	252	193
営業外収益合計	432	396
営業外費用		
支払利息	66	64
為替差損	188	–
投資事業組合運用損	25	54
その他	38	34
営業外費用合計	318	153
経常利益又は経常損失（△）	△355	2,437
特別利益		
固定資産売却益	4	1
投資有価証券売却益	–	5
関係会社株式売却益	6	–
特別利益合計	10	6
特別損失		
固定資産除却損	2	15
投資有価証券評価損	184	34
減損損失	122	–
ゴルフ会員権評価損	25	–
事務所移転費用	–	26
その他	0	12
特別損失合計	334	90
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失（△）	△680	2,354
法人税、住民税及び事業税	530	757
法人税等調整額	238	236
法人税等合計	769	994
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失（△）	△1,449	1,360
少数株主利益又は少数株主損失（△）	△75	7
四半期純利益又は四半期純損失（△）	△1,373	1,352
少数株主利益又は少数株主損失（△）	△75	7
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失（△）	△1,449	1,360
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△134	219
繰延ヘッジ損益	26	6
為替換算調整勘定	△495	514
その他の包括利益合計	△603	740
四半期包括利益	△2,053	2,100
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	△1,984	2,094
少数株主に係る四半期包括利益	△68	5

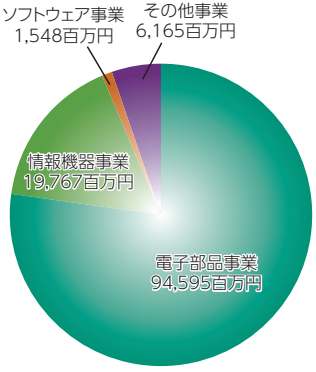
（注）記載金額単位未満の端数については、切捨ての方法で表示しております。

当第２四半期（累計）業績の概要

当社グループは、グループ全体の連携を強化し、既存大手顧客への拡販や新商材の開拓などに注力する一方、不採算部門における事業の見直しや経費削減に努めてまいりました。

その結果、第2四半期連結累計期間における売上高は122,077百万円（前年同期比17.6％増）、営業利益は2,194百万円（前年同期は営業損失470百万円）、経常利益は2,437百万円（前年同期は経常損失355百万円）となり、また、四半期純利益は1,352百万円（前年同期は四半期純損失1,373百万円）となりました。

セグメント別売上高



■電子部品事業

国内におけるアミューズメント機器向けEMSおよび電子部品などの需要が増加し、また海外におけるEMSも好調に推移した結果、売上高は94,595百万円（前年同期比21.6％増）となり、セグメント利益は1,601百万円（前年同期比365.7％増）となりました。

■情報機器事業

スマートフォンやタブレットなどのモバイル端末の普及にともないコンシューマ向けパソコンなどの需要が減少いたしましたが、既存商品の拡販や新商材の発掘に努め、住宅向け関連商材や教育機関向けのパソコン・ソフトウェアおよび環境関連商品などの販売が好調に推移した結果、売上高は19,767百万円（前年同期比2.6％増）となり、セグメント利益は184百万円（前年同期はセグメント損失337百万円）となりました。

■ソフトウェア事業

アニメーションのＣＧ制作やアミューズメント機器用画像処理ビジネスならびにゲームソフトの開発・販売に注力いたしました。その結果、売上高は1,548百万円（前年同期比3.8％増）、セグメント利益は231百万円（前年同期はセグメント損失403百万円）となりました。

■その他事業

国内のアミューズメント施設向けゲーム機器の取扱高が増加し、またゴルフ用品販売事業なども好調に推移いたしました。その結果、売上高は6,165百万円（前年同期比16.3％増）となり、セグメント利益は175百万円（前年同期はセグメント損失27百万円）となりました。

Consolidated Financial Statements

財務諸表（連結）

四半期連結貸借対照表

（単位：百万円）

科　目	前期末（平成25年3月31日現在）	当第2四半期末（平成25年9月30日現在）
資産の部		
流動資産	89,945	94,410
現金及び預金	12,258	14,538
受取手形及び売掛金	54,580	54,479
有価証券	111	110
商品及び製品	14,075	15,400
仕掛品	637	1,068
原材料及び貯蔵品	4,065	3,914
繰延税金資産	482	677
その他	3,823	4,324
貸倒引当金	△90	△102
固定資産	21,943	22,247
有形固定資産	10,559	10,880
建物及び構築物（純額）	3,126	3,098
機械装置及び運搬具（純額）	1,714	1,622
工具、器具及び備品（純額）	805	733
土地	4,305	4,328
建設仮勘定	606	1,096
無形固定資産	2,226	1,999
のれん	799	784
ソフトウエア	435	394
その他	991	820
投資その他の資産	9,157	9,367
投資有価証券	4,491	4,796
繰延税金資産	472	414
その他	5,239	5,168
貸倒引当金	△1,046	△1,011
資産合計	111,888	116,658

科　目	前期末（平成25年3月31日現在）	当第2四半期末（平成25年9月30日現在）
負債の部		
流動負債	53,355	57,091
支払手形及び買掛金	37,423	39,223
短期借入金	9,567	10,141
未払法人税等	1,055	941
その他	5,309	6,785
固定負債	9,726	9,202
長期借入金	5,121	4,395
退職給付引当金	1,643	1,458
役員退職慰労引当金	1,398	1,393
その他	1,562	1,955
負債合計	63,082	66,293
純資産の部		
株主資本	49,895	50,823
資本金	12,133	12,133
資本剰余金	13,912	13,912
利益剰余金	24,384	25,313
自己株式	△535	△535
その他の包括利益累計額	△1,238	△496
その他有価証券評価差額金	△180	38
繰延ヘッジ損益	△6	0
為替換算調整勘定	△1,052	△535
少数株主持分	149	37
純資産合計	48,806	50,364
負債純資産合計	111,888	116,658

（注）記載金額単位未満の端数については、切捨ての方法で表示しております。

四半期連結キャッシュ・フロー計算書（要旨）

（単位：百万円）

科　目	前第2四半期（累計）（自平成24年4月1日 至平成24年9月30日）	当第2四半期（累計）（自平成25年4月1日 至平成25年9月30日）
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,293	3,772
投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,695	△1,033
財務活動によるキャッシュ・フロー	△258	△708
現金及び現金同等物に係る換算差額	△129	186
現金及び現金同等物の増減額	△789	2,217
現金及び現金同等物の期首残高	9,695	11,878
現金及び現金同等物の四半期末残高	8,905	14,096

（注）記載金額単位未満の端数については、切捨ての方法で表示しております。

第46期の通期業績見通し

通期の業績予想につきましては、当第2四半期において国内における半導体など電子部品や国内外におけるEMSビジネスなどの取引が当初の予想よりも好調に推移いたしました。これら事業環境を踏まえた結果、以下の通りとなります。

《連結業績見通し》

連結売上高　247,000百万円
連結経常利益　4,300百万円
連結当期純利益　2,200百万円

配当金のお知らせ

当社は、安定的な長期的視点に立った財務体質と経営基盤の強化に努めるとともに、連結業績を鑑みながら株主の皆様に対する安定的かつ継続的な配当の維持を基本方針としております。

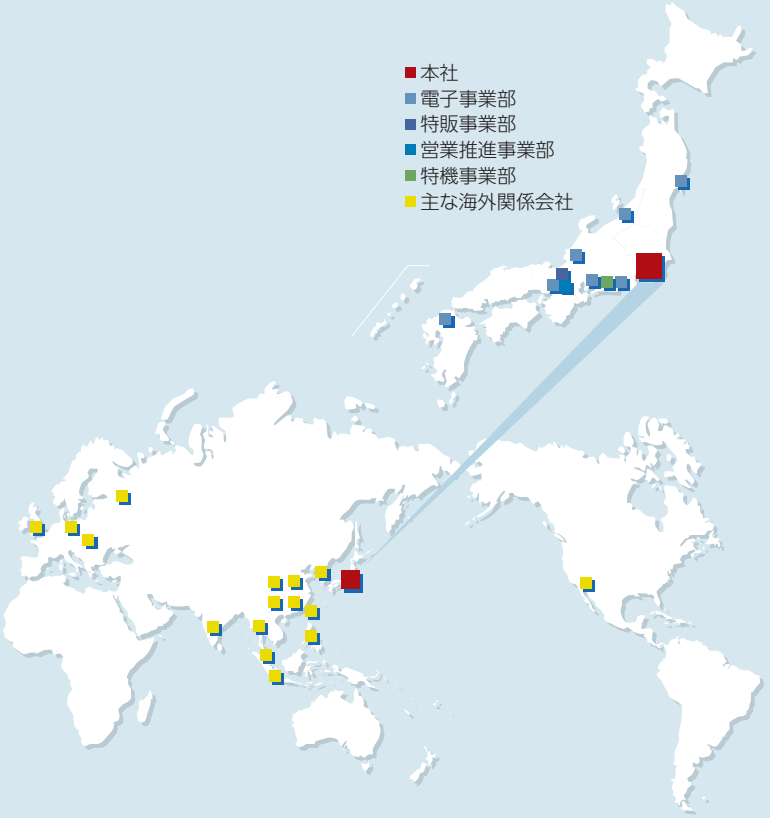
当第2四半期末の剰余金の配当につきましては、上記の方針ならびに経営環境を検討した結果、1株当たり15円00銭とさせていただきました。

なお、期末配当金につきましても上記方針に基づき、第2四半期末と同額の15円00銭とし、年間30円00銭とさせていただく予定であります。

Group Network

グループ・ネットワーク

本　社	TEL. 03-4455-3111
電子事業部	
電子事業部	TEL. 03-4455-3134
北関東営業所	TEL. 048-667-3321
北陸営業所	TEL. 076-262-0711
関西営業所	TEL. 06-6105-0430
名古屋営業所	TEL. 052-746-6480
新横浜営業所	TEL. 045-473-7321
浜松営業所	TEL. 053-457-1661
福岡営業所	TEL. 092-282-1140
仙台営業所	TEL. 022-722-7410
京都営業所	TEL. 075-353-4551
新潟営業所	TEL. 0258-38-8351
海外事業部	
海外事業部	TEL. 03-4455-3126
特販事業部	
特販事業部	TEL. 03-4455-3279
営業推進事業部	
営業推進事業部	TEL. 03-4455-3124
特機事業部	
特機事業部	TEL. 03-4455-3121
特機第二営業部	TEL. 052-746-6481
EMS事業部	
EMS事業部	TEL. 03-4455-3120
技術統括部	
技術統括部	TEL. 03-4455-3128
ICT事業部	
ICT事業部	TEL. 03-4455-3119
環境事業部	
環境事業部	TEL. 03-4455-3180
デバイスソリューション部	
デバイスソリューション部	TEL. 03-4455-3292



主な国内関係会社

加賀テック㈱	TEL. 03-4455-3108
加賀デバイス㈱	TEL. 03-4455-3150
加賀ソルネット㈱	TEL. 03-4455-3100
加賀コンポーネント㈱	TEL. 03-4455-3161
㈱エー・ディーデバイス	TEL. 03-4455-3106
加賀クリエイト㈱	TEL. 03-4455-3157
マイクロソリューション㈱	TEL. 03-4455-3155
㈱デジタル・メディア・ラボ	TEL. 03-4455-3104
加賀スポーツ㈱	TEL. 03-4455-3172
加賀ハイテック㈱	TEL. 03-4455-3188
加賀アミューズメント㈱	TEL. 03-4455-3182
㈱ワークビット	TEL. 046-261-3228
㈱エスアイエレクトロニクス	TEL. 03-4455-3270
㈱サイバーフロント	TEL. 03-6367-0112

主な海外関係会社

KAGA (H.K.) ELECTRONICS LIMITED
KAGA (SINGAPORE) ELECTRONICS PTE LTD
KAGA (KOREA) ELECTRONICS CO.,LTD.
KAGA (TAIWAN) ELECTRONICS CO.,LTD.
加賀電子(上海)有限公司
KAGA ELECTRONICS (THAILAND) COMPANY LIMITED
KAGA DEVICES (H.K.) LIMITED
KAGA ELECTRONICS (USA) INC.
加賀電子(大連)有限公司
KAGA (EUROPE) ELECTRONICS LTD.

Stock Information & Corporate Data

株式の状況／会社概要（平成25年9月30日現在）

株式の状況

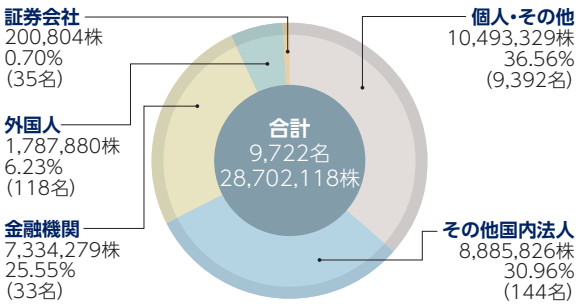
発行可能株式総数 …… 80,000,000株
発行済株式総数 …… 28,702,118株
単元株式数 …… 100株
株主数 …… 9,722名

大株主の状況（上位10名）

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
株式会社三共	3,818	13.30
日本トラスティ･サービス信託銀行株式会社	2,726	9.50
株式会社OKOZE	1,740	6.06
加賀電子従業員持株会	1,357	4.73
株式会社三菱東京UFJ銀行	1,212	4.22
株式会社みずほ銀行	950	3.31
塚本 勲	792	2.76
沖電気工業株式会社	526	1.83
三菱電機株式会社	500	1.74
日本生命保険相互会社	459	1.60

（注）1. 持株数は、千株未満を切り捨てて記載しております。
2. 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社の持株数は、信託業務によるものであります。

所有者別株式分布状況



会社概要

設　　立　昭和43年9月12日
資 本 金　121億3,354万円
従業員数　583名（男409名・女174名）
平均年齢　38.2歳（男40.6歳・女32.7歳）
事業の内容　当社は、電子機器用エレクトロニクス部品の企画、開発、製造、仕入販売、コンピュータおよび周辺機器・関連部品・付属品・ソフトウェアなどの仕入販売ならびに輸出入を主な業務とし、これに付帯する業務も営んでおります。

役　　員

代表取締役会長	塚本　勲
代表取締役社長	塚本　外茂久
取締役副社長	門　良一
専務取締役	下山　和一郎
専務取締役	高橋　信佐
専務取締役	髙師　幸男
常務取締役	筧　新太郎
取締役	川村　英治
常勤監査役	石川　正弘
常勤監査役	隅野　起久夫
監査役	佐瀬　正俊
監査役	田中　雄一郎

■株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	定時株主総会の議決権　3月31日 期末配当　3月31日 中間配当　9月30日
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	〒137-8081　東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社　証券代行部 電話　0120-232-711（通話料無料）
特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
同連絡先	〒168-0063　東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社　証券代行部 電話　0120-782-031（通話料無料） ＊平成25年3月15日付の当社とエー・ディ・エム株式会社との株式交換により当社株式を保有された株主様のうち、特別口座でご所有の株主様につきましては、三菱UFJ信託銀行株式会社が特別口座の口座管理機関となっております。
公告方法	電子公告の方法により行います。 ただし、電子公告によることができない事故その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞（東京）に掲載します。 公告掲載URL　http://www.taxan.co.jp/

■住所変更、単元未満株式の買取・買増等のお申出先について

株主様の口座のある証券会社にお申出ください。
なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関にお申出ください。

■未払配当金の支払いについて

株主名簿管理人である三菱UFJ信託銀行株式会社にお申出ください。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
※平成25年6月28日付、株主名簿管理人を次の通り変更いたしました。
株主名簿管理人　東京都千代田区丸の内一丁目4番5号　三菱UFJ信託銀行株式会社
＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

【表紙・絵】宮坂　健 Ken Miyasaka

《魚の塔》

地球が見えるのだからここは地球ではないのですねと聞かれて、考えてみた。自分自身でも解らないことが多いのだ、だから描くとも言えるのだが、、。古代魚は惑星を吐いているのかそれとも飲み込もうとしているのか、それも定かではない。夢の中で、あるいは時空を超えた別の世界で見ていた、記憶の断片なのかもしれない。

作者略歴：1949年生まれ
安井賞展、浅井忠記念賞展、
セントラル油画大賞展、
日本青年画家展等
個　　展：日本橋三越等
著　　書：『地球、旅の記憶』

KAGA ELECTRONICS CO.,LTD.
〒101-8629　東京都千代田区外神田三丁目12番8号 住友不動産秋葉原ビル
TEL.03-4455-3111（代）　FAX.03-3254-7131
http://www.taxan.co.jp/
東証一部：証券コード 8154

UD FONT 見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。
VEGETABLE OIL INK
FSC www.fsc.org ミックス 責任ある木質資源を使用した紙 Paper from responsible sources FSC® C010958
JSA JISQ 14001:1996 登録番号 JSAE594
JAB EMS Accreditation EMS Accreditation 認定番号 RE005